
小さな運命共同体

哀 l o v e コナン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

小さな運命共同体

【Zコード】

Z4767Z

【作者名】

哀10vēコナン

【あらすじ】

短編集として書きたかったんですが、あまりにも長くなり過ぎて
…連載にしました

予定していたものプラス少し加えて、『哀小説を今度は連載して行
きます。

医療全く無視をした『哀』です。ネタバレになるので、どちらかで言
つておきます。どちらかの死ネタになりますので、ご注意して読ん
でください。

前作見ていただいた方はわかると思いますが、またあの優しい先生
が出てきます。

「哀を好きな人にとっては怒られるかもしれないですが、嫌な人は
ここでスルーしてください。」

そして、今回は一話一話が短いと思います…前作と比べると…それ
と、あくまで「哀なので、新一や新一の両親などの登場はありません
…服部も（今の段階では）出でこないと思います。」

それを含め、大丈夫な方のみ…閲覧お願いします。

プロローグ～運命　それは　変えたいもの

運命……それは、一人一人が神様によつて授けられたもの……。

運命……それは、自分自身でどうにでも変える事が出来るもの……。

きつと、これもまた……”運命”なのかもしれない……。

”工藤君　私は貴方に　何もしてあげられないのよ……”

”お前は生きてくれてるじゃねーか　それだけで充分だよ……”

その言葉を交わした君と僕との間には、何があつたんだろう?…その言葉…ちゃんと君に伝わったのかな…いつだって、励ましていたはずだったのに…。

でもこれが…君と僕の…最後の物語になつてしまつたんだね…。

君の運命を僕は変える事が出来たのかな…本当に君は…それで幸せになれたのかな…。

でも、君にあんな運命背負わせたくないなかつたんだ…だから、君の運命を…僕が変えてあげたかつたんだ…。

だから、お願い…僕がした事、許して欲しいんだ…。

そして…生きる事を諦めないで…お願いだから…なあ、灰原…!!

プロローグ～運命…それは…変えたいもの（後書き）

始まりました。

プロローグなので今日は短いです…。

読んでもらって嬉しいです。

今回は不定期になりますが、よろしくお願ひします。

時間があれば、それほどあかず、投稿できるとおもいます。

また、今回もヒントを残して、
次に進みたいと思います。

次回ヒント
準備したい事

次回、またよろしくお願ひします。

診察結果

ある平日の朝…。

とある病院に来ていたコナンは、診察室で…蘭と小五郎が見守る中…医師によつて、胸に聴診器を当てられていた…。

「うん…大丈夫だね。順調、順調…」

コナンの胸に当てられた聴診器を離しながら、今度はコナンの頭に手を当てて微笑む先生の名は坂井医師…。

コナンが最も慕つている…コナンの主治医でもあつた…。

「コナン君、こないだの話なんだけど…そろそろ、準備したいんだ…返事聞かせてもらえるかい？」

「まだ、大丈夫だよ…」

そう話すコナンは何となく、淋しそうな表情を浮かべて俯いていた…。その様子に見兼ねた坂井医師は、コナンに言つた。

「…ねえ、コナン君…先生、ちょっと毛利さんと蘭さんに話がした
いから…コナン君は先に戻つていってもらえるかい？」

「僕だけ…内緒の話?」

不安な面持ちで坂井医師の顔を覗き込むコナンを見た坂井医師は、
につこり笑いながら…コナンの頭を撫でながら言つた…。

「違うよ…コナン君が納得してもらえるように…相談しなきゃだか

ら…それに、早くしないと取り返しのつかない事になっちゃうから

ね…

「…うん」

突きつけられた自分の現実に、コナンは納得したくなくても、頷くしかなかつた…。

そんなコナンを見た蘭はコナンの顔を覗き込んで、諭すかの様に話出した…。

「コナン君、大丈夫よ…すぐ行くから、病室でちやんと待つて…」

そう言われたコナンが診察室を後にした後、坂井医師は小五郎と蘭に話を始めた…。

「先日もお話ししましたが…コナン君の手術の準備をそろそろ取り掛かりたいと思うんですが…」

そう話す坂井医師だったが、コナンの事を思つあまり…自然と目が泳いでいた…。

「手術自体は、そう難しくないんですが…コナン君が手術を拒んでる今の状況では、こちちらとしても手術を行えないんです…ですから、毛利さん達から説得してもらえませんか?」

コナンに病気の事や手術の事を話してから、コナンがずっと手術を拒み続けている事を坂井医師は心配していた…。

でももう、時間が限られている…そんなコナンの手術に、坂井医師は少しばかりの焦りを感じていた…。

「でも、先生…私達が言つても…コナン君、分かつてくれないと思うんです……だから、先生から話してもらえるといいんですけど…？」

蘭は「ナンの性格を分かつっていた…蘭達が手術の事を話しても”大丈夫”と言つて、聞く耳を持たないかも知れないから…。

だから、先生からもう一度言われた方が分かつてくれると、確信していた…。

診察結果（後書き）

今晚わwww

今日は変な時間に投稿ですwww
一応、ストックが溜まって来たので
しばらくは毎日投稿になるとおもいますwww

次回ヒント
哀ピンチ

次回もお楽しみに

いなくなつた小さな探偵と哀に迫る悪魔（前書き）

今回、コナンは出て来ませんww
明日までお待ちください（。。。一一一）

いなくなつた小さな探偵と哀に迫る悪魔

「分かりました…」

蘭の頼みを聞き入れた、坂井医師はコナンにもう一度…手術の事を受け入れてもらえるように…蘭と小五郎を連れ、コナンが戻つたであらう病室に足を運んだ…。

コナンの病室の扉を開ける坂井医師は、目を見開いた…。

「あれ? コナン君?」

病室に戻るよつて言つたはずのコナンの姿がどこにもなかつた…。

そればかりか、置いてあつたはずのランドセルが、見当たらない事に気付いて…坂井医師はため息を一つした…。

「あのガキ…どこの行きやがつた…! 蘭、お前はここにいろつ…」

そう言つて、コナンを連れ戻しに行こうとする小五郎を坂井医師は止めた…。

「まあまあ、毛利さん…今すぐどうこういう問題ではありませんから…とりあえず、様子を見て見ましょつ…コナン君ならきっと大丈夫ですから、帰つてくるのを待ちましょつ? それに…」

そつとひいて、腹を立ててる小五郎を落ち着かせた…そして、ひと呼吸置くと、再度口を開いて言つた…。

「行き先は…分かつてますから…」

一方、阿笠邸では…自分自身に降りかかる悪魔が徐々に詰め寄つて
る事に気づかず、哀はいつもの朝を過ごしていた…。

「博士…「一ヒー、」」」置ことくわよ…」

「ああ、すまんな哀君…」

そつ言ひと、哀の差し出した「一ヒー」に手を伸ばし、それを口にするのを見た哀は…つと笑い、嫌みをいいながら玄関へと歩き出した…。

「じゃ、私は学校に行つてくるわ…博士…私がいないからと言つて、
高力口リーな物食べ過ぎないようにね…」

「分かつとるわい…」

そういうながらも、残念そうな顔をする博士の顔を振り返つて見た
次の瞬間…哀は胸を抑えしゃがみこんでしまつた…。

驚いた博士は哀に近づき、心配な面持ちで声をかけた…。

「哀君…どうしたんじや？」

「何でも…ハア…ないわ…ハア…いつもの事よ…ハア…すぐ治まる
わ…」

「いつも?」

驚いた博士は、哀の発言に耳を疑つた…。

「最近、良く…ハア…あるのよ…でも、大丈夫よ…ハアハア…心配…ないわ…」

苦しみながら、心配する博士を気遣う哀…暫くすると、本当に苦しさは治まった様子で…強張らせていた顔も正常に戻っていた。

それに安心していた哀はゆっくり立つと、”ね？”といった感じで笑つて見せた…。

そんな哀の様子に不安になり、哀に病院へ行く様に勧めた…。

「平氣よ…それより、博士…工藤君から何か聞いてない？」

「新一？何をじや？」

「2日も学校休んでるのよ…まあ、博士が聞いてないなら問題ないと思つけど…じゃ、行つてきまーす…」

博士の心配をよそに、哀はなにもなかつたかの様に平氣な顔をして学校に向かつた…。

閉まる扉を目にして、哀やコナンの事が心配になつた博士は…暫くその扉の前で一人、佇んでいた…。

いなくなつた小さな探偵と哀に迫る悪魔（後書き）

次回ヒント

噂の人物

今晚わwww

今年も残り3日になりましたね

今日はスペシャルばかりで、何をみよつか迷ってしまいます（。

。 一一一）

始まつてまだ間もないこの小説なんですが、死ねたというのを了承して読んでいただき&お気に入り登録や感想いただき、ありがとうございます。

励みになります。

では、また明日の投稿をお待ちください

噂をすれば、登場

哀が教室の扉を開け、入ろうとした時…歩美、元太、光彦は哀の姿に一目散に駆け寄った…。

「哀ちゃん…おはよー」

「灰原さん、おはようございます…」

話があると言わんばかりに、哀の顔をじっと見つめる三人に…哀は不思議に思いながら、平静を装つて聞いてみた…。

「おはよ……どうしたの? そんな顔して…」

「哀ちゃん…またコナン君お休みだつて…」

「えつ? ? ? そり…」

言いたい事は分かつていた哀だったが、休みと聞いて…少しばかり心配が募つていた…。

「昨日、俺ら探偵事務所に行つたんだ…でもよ、家んなか真っ暗で…誰も居なかつたんだよ…」

「何かあつたんでしようか?」

コナンの事が心配で堪らない少年探偵団…コナンが居るはずの探偵事務所に行つても誰もいないなんて事…今まで会つたんだろうか?

そんな光景を目の当たりにした三人が、不安がらないはずもなかつた…。

哀はそれでも、心配させない様にと諭しながら話始めた…。

「何言つてゐるのよ…彼なら大丈夫よ、ただの風邪でしょ？病院にでもいってたんぢゃない？」

「でも…」

「だいたい、何かあつたなら私達に言つて来るでしょ？そういう人でしょ？江戸川君は…」

そういうて、三人を凝視した…。そんな哀を見て三人は泣く泣く頷くしかなかつた。

「はーい、みんなー、席に着いてーー出席を取るまえに報告です。今日もコナン君は風邪でお休みだそうです…でも、心配しないでね、ただの風邪みたいだから…」

小林先生は、教室に入つて来るなり、教室にいる生徒達に報告した…。その言葉に、三人は騒ぎだし、後ろの席にいた元太が光彦に声をかけて來た。

「なあー、今日も帰り寄つてみよーぜ？」

「そうですね…」

「階で行こーーー！」

三人がそんな言葉を交わしている時…教室の扉が開いた…。

「おはよひゞやこます…」

顔を出したのは、噂をすればの「コナン」だつた…。

「コナン君ーー！」

コナンの休む連絡を受けた直後の出来事だったので、さすがに皆驚いていた…。

小林先生がコナンに近寄り、自分の額とコナンの額を触り、見比べていた…。

「熱はないみたいだから、大丈夫そうだけど…」

「大丈夫だよ…もう治っちゃったから…」

「でも、無理しちゃダメよ?」

「うん、分かった!…」

そつ言葉を交わすと、コナンを席に着かせた…。

席に着いたコナンは哀に”よつ”と、挨拶すると、哀は無駄な心配させられた事に不機嫌になり…瞳だけコナンの方に向かせると言った。

「余計な心配させてんじゃないわよ…」

「なんだお前、心配してくれてたのか…」

「私じゃないわ…あの子達によ…朝から大変だつたんだから…」

「…」

哀にそう言われたコナンは、ゆっくり三人の方へ視線を移すと、三人は心配な面持ちでコナンの方を見ていた…。

尊をすればの、登場（後書き）

こんにちは

とうとう残り2日を切りましたね w

来年はどんな一年にしようか考えさせられる

今田はもう一話、夜に投稿予定です。

では、また夜に会いましょう* . 。 。 * : . 。 。 *
(*。 。 *) - . * : . 。 。 * : . 。 。 *
。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。

次回ヒント
倒れる

病魔の発覚

「コナン君ーん、哀ちゃんーん……」

「帰りましょーーー！」

「行こーぜー！」

授業が、終わり……帰る支度をしているコナンと哀に向かつて言葉が投げかけられた……。

「おうー……帰ろーぜ、灰原……」

「ええ……」

そつ言つてランドセルを背負つと、五人揃つて……久々の下校を共にしていた……。

そして……これが最後の五人揃つての下校になるなんて、この時は知る術もなかつた……。

「大丈夫ですか？」「コナン君……」

「ああ、平気だよ……悪かつたな……心配かけちまつて……」

「いえ……では、僕達こっちですか……」

そう言う光彦を先頭に、曲がり道に差し掛かった三人は一人に手を降り叫んでいた……。

「また明日会いましょう……」

「哀ちゃん、まつたね~」

「じゃーなー、『ナン!』無理すんなよーー。」

そう言つ二人に、『ナンは大きく手を降り…哀は顔だけ向いて微笑んでいた…。

「わーつてゐよ、じゃーなー」

一人だけになつて…哀は漸く本題を切り出す事が出来た。

「ねえ、今朝何で遅刻して來たの?」

「ああ、ちょっと寝坊しちゃつて…」

分かりやすい嘘をつく『ナン』にジト田で見る哀は…田線を床すと言つた…。

「遅刻…それで私が納得すると思つてるの?」

「まあ、いいじゃねーか…あつ、じゃーな…」

「ちよつと…」

丁度曲がり道に差し掛かり、哀の言葉を無視して…『ナンは探偵事務所の方へ歩いて行つた…。

呆れながら、哀もまた帰り道を歩いていいる時…胸の痛みを感じた哀は、ドサッと音を立てて…その場に倒れこんでしまつた。

それを感じた『ナンは急いで哀の元へ駆けつけた…。

「おー、灰原…どうした?」

「つづつ…痛い…胸が苦しい…痛いつつ…」

コナンは心配な面持ちで、駆け寄り哀に声をかけるが、哀は更に胸を押されて苦しみ出した…。

「おい、灰原…しつかりしる…」

「つづつ…」

「灰原！？灰原ああああ————！」

コナンの叫び声が響き渡る中、哀はただただ、痛みに耐えていた…。

病魔の発覚（後書き）

次回ヒント
治療中

こんばんわ、実は、この中に出てくる坂井先生はZARDから取りましたww

14年位、ファンなのです(^-^)ノ

では、今日はとっても寒いから、みなさん風邪に気をつけくださいね。(^-^)ノ

心配になるコナン

哀が倒れたのを田にしたコナンは急いで自分の携帯で救急車と、阿笠博士に連絡した。

直ぐに救急車が到着して…コナンも一緒に付き添っていた…。

救急隊員による処置を施されながら、コナンは哀の顔だけを見続けていた…。

病院に着き…ストレッチャーに乗せられ、治療室に運ばれる哀を追いかけながら、賢明に声をかけるコナン…。

「灰原…」

身長が足らず、哀の顔を見る事ができないコナンだったけど…哀の苦しむ声だけは耳に届いていた…。

「坊や、ちゅうとこいで待つてね…」

治療室の前まで来ると、看護婦さんが「コナンに声をかけた…その声に一つ頷くと、治療室に運ばれる哀の乗ったストレッチャーをずっと眺めていた…。

「コナン君…ダメじゃないか、走つたりしちゃ…」

その声に振り向くと…坂井医師が何時の間にかコナンの後ろに立つ

ていた……。

「先生……」

「先生の勘違いだったみたいだね……コナン君が倒れて……自分で救急車呼んだのかと思って……毛利さんに連絡しちゃったよ……」

コナンの目線まではしゃがむ坂井医師はコナンの顔を覗き込むと言つた……そんな坂井医師の顔を一度見ると……再びコナンの目線は治療室へ向いた……。

「君の、友達かい？」

そう言われ、一度俯いたコナンだったが……もう一度坂井医師の顔を見ると言つた……。

「先生……灰原……大丈夫……だよね？」

「まだ、治療中だからね……担当の先生が出て来ないと分からないな

……」

「そう……」

コナンの頭に手を置きながらついでに坂井医師の言葉を聞いたコナンは寂しそうに俯いた……。

「ひひ、コナン……！」

その時、連絡を受け蘭を連れてやつて来た小五郎に、コナンは鉄拳制裁を下された……。

「痛いよ、おじさん……」

「あつたりめーだーだー誰が学校行けつて言つたんだーー病室に戻れ

つて言つただるー「がー！」

「お父さんーーいいじゃない、ちやんと戻つて来たんだから…」

その光景に見兼ねて、坂井医師は「ナンの手を握ると言つた…。

「まあまあ、とりあえず一度診察室へ行きましょーう。もう分かつた
よね？」「ナン君…？？」

「うん…」

坂井医師の言葉に頷くと、「ナンは頭を摩りながら…診察室へ連れ
ていかれた…。

心配になる「ナラン」（後書き）

ほんわんばんじん

今年最後の投稿となりました

今年も残すところ
www

3時間切りましたねへ(^ ^ ^) (ノ^ ^) ノ
ガキ使見てる人、紅白見てる人…それですが…皆さん気が持ち
のいい新年になるといいですね 、 、

また、来年会こましょい（＊、）ノ：・・＊ +＊・・・／
皆さん、よこの年を8（< ^ 8）（8^ & 8” ”

では、今年最後のヒントにいきたいと思います

次回ヒント

約束

です
W
W

新年初投稿をお楽しみに??

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4767z/>

小さな運命共同体

2011年12月31日21時54分発行